

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	OIE Disease Information 19(10) 2006年3月9日	2006年2月22日にブラジルで古典的ブタコレラが発生し、3月6日に確定された。ブタ疑い例131頭、死亡例46頭である。
18	2006/8/16	68018	泉工医科工業株式会社	膜型人工肺	ヘパリン	豚小腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060111.0095 ProMED-mail20060112.0107	ベトナム当局者は2006年1月11日、ベトナム南部で口蹄疫に感染した疑いのあるブタが見つかったと発表した。死亡したブタを調べたところ、コレラであることが判明した。2005年12月中旬以降、約380頭のブタがTien Giang省で死んだ。口蹄疫の流行はないが、数頭のブタは口蹄疫陽性であった。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(4) 2006年1月26日	2006年1月12日、ロシアChitinskaya州Kalgansky地区で、口蹄疫(セロタイプAsia1)が発生した。補体結合試験、ELISA、PCRで陽性であった。ウシ、ブタで死亡例はない。感染源を調査中である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(6) 2006年2月3日	2006年2月3日、ブルガリアYambol州Boliarovo地区で古典的ブタコレラが発生した。ブタの疑い例30頭、死亡例7頭である。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	アルゼンチンCorrientes州で2006年2月5日に発生した口蹄疫(セロタイプO)は、ウシ4513頭、ブタ5頭、ヤギ・ヒツジ533頭の被害が出たが、隔離、ワクチン接種、消毒などの措置により、根絶した。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(24) 2006年6月15日	2006年3月1日にドイツNorth Rhine-Westphaliaで発生した古典的ブタコレラは当局の撲滅策の結果、鎮静した。2006年5月9日以降、1例の発生もなく、感染地域からの検体は陰性である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(10) 2006年3月9日	2006年2月22日にブラジルで古典的ブタコレラが発生し、3月6日に確定された。ブタ疑い例131頭、死亡例46頭である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
19	2006/8/16	68019	泉工医科工業株式会社	人工心肺用血液回路	ヘパリン	豚小腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060111.009 5 ProMED-mail20060112.010 7	ベトナム当局者は2006年1月11日、ベトナム南部で口蹄疫に感染した疑いのあるブタが見つかったと発表した。死亡したブタを調べたところ、コレラであることが判明した。2005年12月中旬以降、約380頭のブタがTien Giang省で死んだ。口蹄疫の流行はないが、数頭のブタは口蹄疫陽性であった。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(4) 2006年1月26日	2006年1月12日、ロシアChitinskaya州Kalgansky地区で、口蹄疫(セロタイプAsia1)が発生した。補体結合試験、ELISA、PCRで陽性であった。ウシ、ブタで死亡例はない。感染源を調査中である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(6) 2006年2月3日	2006年2月3日、ブルガリアYambol州Boliarovo地区で古典的ブタコレラが発生した。ブタの疑い例30頭、死亡例7頭である。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	アルゼンチンCorrientes州で2006年2月5日に発生した口蹄疫(セロタイプO)は、ウシ4513頭、ブタ5頭、ヤギ・ヒツジ533頭の被害が出たが、隔離、ワクチン接種、消毒などの措置により、根絶した。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(24) 2006年6月15日	2006年3月1日にドイツNorth Rhine-Westphaliaで発生した古典的ブタコレラは当局の撲滅策の結果、鎮静した。2006年5月9日以降、1例の発生もなく、感染地域からの検体は陰性である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(10) 2006年3月9日	2006年2月22日にブラジルで古典的ブタコレラが発生し、3月6日に確定された。ブタ疑い例131頭、死亡例46頭である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
20	2006/8/16	68020	泉工医科工業株式会社	膜型人工肺	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国	製造工程	有	無	無	口蹄疫	ProMED-mail20060111.0095 ProMED-mail20060112.0107	ベトナム当局者は2006年1月11日、ベトナム南部で口蹄疫に感染した疑いのあるブタが見つかったと発表した。死亡したブタを調べたところ、コレラであることが判明した。2005年12月中旬以降、約380頭のブタがTien Giang省で死んだ。口蹄疫の流行はないが、数頭のブタは口蹄疫陽性であった。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(4) 2006年1月26日	2006年1月12日、ロシア Chitinskaya州 Kalgansky地区で、口蹄疫(セロタイプAsia1)が発生した。補体結合試験、ELISA、PCRで陽性であった。ウシ、ブタで死亡例はない。感染源を調査中である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(6) 2006年2月3日	2006年2月3日、ブルガリア Yambol州 Boliarovo地区で古典的ブタコレラが発生した。ブタの疑い例30頭、死亡例7頭である。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	アルゼンチン Corrientes州で2006年2月5日に発生した口蹄疫(セロタイプO)は、ウシ4513頭、ブタ5頭、ヤギ・ヒツジ533頭の被害が出たが、隔離、ワクチン接種、消毒などの措置により、根絶した。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(24) 2006年6月15日	2006年3月1日にドイツ North Rhine-Westphaliaで発生した古典的ブタコレラは当局の撲滅策の結果、鎮静した。2006年5月9日以降、1例の発生もなく、感染地域からの検体は陰性である。
												細菌感染	OIE Disease Information 19(10) 2006年3月9日	2006年2月22日にブラジルで古典的ブタコレラが発生し、3月6日に確定された。ブタ疑い例131頭、死亡例46頭である。
21	2006/9/7	68021	株式会社ウベ循環研	ヘパリン使用人工心肺用回路システム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	組成・構造	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
22	2006/9/8	68022	タカラバイオ株式会社	血球細胞除去用装置	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	米国	組成・構造	無	無	無			
23	2006/9/8	68023	タカラバイオ株式会社	血球細胞除去用装置	マウス抗体	マウス脾細胞由来のハイブリドーマの細胞培養液	米国	組成・構造	有	無	無	ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 838-840	ギニアのSangassouで捕獲したアフリカモリネズミのハンタウイルスの遺伝子配列を検出した。遺伝子解析と系統発生解析から新種のハンタウイルスであることが明らかとなり、「Sangassou virus」と命名した。
24	2006/9/8	68024	タカラバイオ株式会社	血球細胞除去用装置	羊抗体	ヒツジ血液	ノルウェー	組成・構造	有	無	無	HEV	Ther Apher Dial 2006; 10: 193-197	定期的な血液透析患者におけるE型肝炎ウイルス感染状況を調べた。多施設の患者1077例から被験者として無作為に300例を選択したところ、19.0%がIgG型抗HEV抗体陽性であり、以前報告された健康な腎臓を持つ患者での陽性率より高かった。抗HEV抗体陽性率は抗HCV抗体陽性患者群(27.8%)と抗HCV抗体陰性患者群(17.8%)とで有意差はなかった。
25	2006/9/12	68025	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社	ヘパリン使用サーモダイリユーシオン用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	米国、中国及びカナダ	組成・構造	有	無	無	インフルエンザ	感染症学雑誌 2006; 80: 1-7	インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症で、比類なき伝播力の強さにより、世界各地で流行を繰り返している。新型ウイルスの出現メカニズムについて、これまでは鳥のウイルスとヒトのウイルスがブタなどの同一個体内に共感染することでハイブリッドウイルス(遺伝子再集合体)が生じると考えられてきた。しかし、実際にブタで、鳥のウイルスとヒトのウイルスの間において遺伝子再集合が起こったという証拠はない。また、新型ウイルスが従来考えられていたものとは異なるメカニズムで出現しうることが示唆された。必ず起こるパンデミックに対して、人類はいまだ十分な備えができていないと言いはる。
												細菌感染	J Food Prot 2006; 69: 260-266	スイスの屠殺場で処理された630頭のブタの糞検体について、E. Coli O157 (rfbE) とShiga-toxin 産生E.Coli (STEC, stx)の排出をPCRにより検査した。rfbE陽性率は7.5%、stx陽性率は22%であった。コロニーハイブリダイゼーションにより31株のE. Coli O157と45株のSTECが単離され、これらの表現型と遺伝子型を特徴づけた。その結果、ヒト疾患と相関性が強いものは1株だけであり、ほとんどが病原性が低いと思われた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
26	2006/9/4	68026	株式会社ジェイ・エム・エス	ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用チューブ接続用コネクタ ヘパリン使用単回使用人工心肺用熱交換器 ヘパリン使用体外式膜型人工肺 ヘパリン使用心臓血管縫合補助具 ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ	ヘパリン	ブタ腸管粘膜	スペイン	組成・構造	有	無	無	レンサ球菌性敗血症	PLoS Medicine 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2 (SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。
												HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 579-586	世界各地のブタ同様、日本のブタでもE型肝炎ウイルス(遺伝子型3型と4型の土着株)感染が蔓延している。ブタからヒトへの感染を示す直接的な証拠はないが、実験的にブタからチンパンジーへの感染が立証され、ヒトHEVと塩基配列が100%一致するHEV株がブタから分離されている。北海道で大多数の患者が発症1~2ヶ月前にブタレバーやホルモンの摂取歴があり、市販のブタレバーから1.9%の頻度でHEVが検出されたことなどから、ブタの肉や内臓を生または加熱不十分な状態で摂取した場合に感染する危険性がある。
												HEV	Rev Med Virol 2006; 16: 5-36	HEV分離株計421株のヌクレオチド配列をGenbankで検索し、分析した。系統発生的には4つの主要な遺伝子型に分類された。地理的には遺伝子型1はアジアおよびアフリカの熱帯ならびに一部亜熱帯諸国で分離され、遺伝子型2はメキシコ、ナイジェリア、チャドで分離された。遺伝子型3はほとんど世界中で見つかり、遺伝子型4はアジアでだけ見つかった。遺伝子型3および4を特徴とするほとんどの地域でヒトと動物からの配列の保存性は高く、同じ感染源に由来することを示している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
27	2006/9/6	68027	ユニテカ株式会社	ウロキナーゼ使用中心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル ウロキナーゼ使用胸部排液用チューブ ウロキナーゼ使用オプチュレータ	ウロキナーゼ	人尿	中華人民共和国	組成・構造	無	無	無			
28	2006/9/13	68028	東レ株式会社	植込み型医薬品注入器① 滅菌済み血管診断用チューブ及びカテーテル② その他の外科・整形外科用手術材料(涙液・涙道シリコンチューブ)③ 合成樹脂製人工血液④	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	①②ブラジル、中国 ③中国 ④ブラジル	組成・構造	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
29	2006/9/22	68029	ニプロ株式会社	その他の滅菌済み留置チューブ及びカテーテル(血管内留置用カテーテル) 滅菌済み体内植込みチューブ及びカテーテル 滅菌済み中心静脈注射用チューブ及びカテーテル 滅菌済み人工腎臓用留置針 膜型人工肺	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国	組成・構造	有	無	無	HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 601-606	北海道北見市で69歳、男性がE型肝炎で死亡した。種々の調査により同市内の焼肉店で会食した患者の親類縁者計7名にE型肝炎が集団発生していたことが判明した。感染源は豚肉、豚レバーと考えられた。またE型肝炎ウイルス(HEV)に感染した患者次男の血液型が64歳男性に輸血され、受血者はE型肝炎を発症した。HEV-RNA解析を行ったところ、患者次男と受血者の配列は一致した。本事例は市井の料理店でのHEV感染を示唆する初の事例であり、またわが国のE型肝炎の疫学的データを非常によく反映している。
												HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 519-526	輸入感染例もあるにはあるが、わが国のE型肝炎例の多くは、土着化したE型肝炎ウイルス(HEV)による国内感染であり、感染源としてはブタ、イノシシ、シカなどの動物が注目されている(ただし輸血を除く)。土着HEV株の遺伝子型は3型と4型であり、前者は津軽海峡以南に、後者は北海道に多く存在する。分子時計解析によって、3型も4型も西暦1900年前後に日本上陸したと推察される。
												HEV	臨床消化器内科 2006; 21: 579-586	世界各地のブタ同様、わが国のブタでもE型肝炎ウイルス(HEV)(遺伝子型3型と4型の土着株)の感染が蔓延状態にある。ブタからヒトへのHEV感染を示す直接的な証拠は得られていないが、実験的にブタからチンパンジーへの感染が立証され、ヒトHEVと塩基配列が100%一致するHEV株がブタから分離されていること、E型患者が多い北海道では多数の患者が発症1~2ヶ月前にブタレバーやホルモンの摂食既往を有し、市販のブタレバーから1.9%(7/363)の頻度でHEVが検出されている。ブタの肉や内臓を生、あるいは加熱不十分な状態で摂食した場合にはHEVに感染する可能性があると思われる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌性敗血症	N Engl J Med 2006; 354: 1325	アメリカでのStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例についての報告である。健康であった59歳の男性農業従事者が突然、発熱と錯乱を起こし、髄膜炎となった。血液と髄液培養によりS. suis感染と判明した。抗菌療法をセフトリアキソンとバンコマイシン投与では状態が悪化したため、抗菌療法をアンピシリン静注に変更した。13日間入院後、症状はなくなり、退院した。患者は入院の数ヶ月前、子豚を近くの農場から購入したが、兄弟の子豚が髄膜炎で死んでおり、S. suisはその農場で検出された。
												寄生虫感染	ProMED-mail20060520.1430	2005年12月から2006年3月にドイツMecklenburg-Vorpommern州で大家族のメンバーの17人に旋毛虫症が検出された。2006年3月21日に、地区の保健当局は旋毛虫症の検査診断症例について通知された。患者(30歳女性)は下痢、吐き気、熱、顔の膨張、および筋肉痛を伴い、2006年2月22日に入院した。旋毛虫幼虫は、免疫蛍光顕微鏡検査による筋生検で見つかった。地元の保健獣医当局は、家で育てられ、肉屋で屠殺されたブタの肉が感染源であると疑っている。
30	2006/9/22	68030	エドワーズライフサイエンス株式会社	ヘパリン使用静脈用カテーテルイントロドューサー① ヘパリン使用サーモダイリューション用カテーテル② ヘパリン使用バルーン付ベージング向け循環器用カテーテル③ ヘパリン使用中心静脈用カテーテルイントロドューサーキット④ ヘパリン使用体外式ペースメーカ用心臓電極⑤ ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ⑥ ヘパリン使用大動脈カニューレ⑦ ヘパリン使用人工心肺用回路⑧ ヘパリン使用人工心肺用回路用血液フィルタ⑨ ヘパリン使用人工心肺用貯血槽⑩	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	①②③④⑤ 中国 ⑥⑦⑧⑨⑩ 米国、カナダ	組成・構造	有	無	無	レンサ球菌性敗血症	PLoS Medicine 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。



ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
31	2006/9/25	68031	日本シャーウッド株式会社	ウロキナーゼ使用中心静脈用カテーテル ウロキナーゼ使用胸部排液用チューブ ウロキナーゼ使用緊急時ブラッドアクセス留置用カテーテル	ウロキナーゼ	ヒト尿	中華人民共和国	製造工程	無	無	無			
32	2006/9/28	68032	トノクラ医科工業株式会社	ヘパリン使用人工心肺用回路システム ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用体外式膜型人工肺	ヘパリンナトリウム	豚小腸粘膜	アメリカ合衆国	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO EPR 2006年9月14日	インドネシア保健省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染をさらに2症例確認した。これらの症例は2006年3月および5月に発生した。1例目は、West Java州East Bekasiの5才の男児で、2006年3月4日に発症し、19日に死亡した。2例目は、West Sumatra州Solokの27才男性で、2006年5月17日に発症しH5N1感染が確認された15才の妹の接触者追跡中に特定された。男性の症状は軽度のままで、数日以内に回復した。男性から収集されたサンプルの初期検査はH5N1感染陰性であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060623.1741	2006年6月22日、オランダ保健当局の発表によると、2005年5月に死亡した女性が変わ異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)と診断され、オランダにおける2例目の症例となった。この症例は汚染された肉製品の摂取により感染した可能性が最も高い。オランダではvCJD伝播の懸念から献血に関するより厳重な制限を課している。
												ウエストナイルウイルス	ProMED20060424-0120	アルゼンチンで初めて、少なくとも2頭のウマでウエストナイルウイルス感染症例が確認され、国際獣疫機関に報告された。2006年4月24日から、ウマの輸出を一時的に禁止すると通知した。死亡したウマは、San Antonio de Arecoにある競馬ウマ牧場で飼育されていた。ヒト感染患者は報告されておらず、感染予防キャンペーンを展開していると発表した。環境当局は、この夏季中に野鳥50羽以上の大量死が発生したため、Malargue地区にあるUancaneloラグーンを(感染症)警戒状態とした。当局は、検体を解析のためにBuenos Aires大学に送付したが、鳥インフルエンザは陰性と判明し、現在、肝炎やウエストナイルウイルスの検査結果を待っている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												狂犬病	ProMED20060330-0040	2006年3月前半に米国Lea郡でウマの狂犬病症例が記録されたことを受けて、現地の獣医師は、馬主に対して、持ち馬へのワクチン接種を勧奨している。今のところ、Lea郡で飼育されていた問題の馬が、唯一の狂犬病症例である。
												寄生虫感染	養豚の友 2006年3月号: 68-70	日本に分布する肺吸虫は主にウエステルマン肺吸虫、大平肺吸虫、宮崎肺吸虫の3種である。現在は豚病としてよりもヒトへの感染源として重要視されている。第一中間宿主(カワニナ)、第二中間宿主(淡水産カニ)をとる。第二中間宿主体内のメタセルカリアをヒトやイノシシが経口摂取して感染する。肺吸虫は肺に寄生し、様々な呼吸器症状を呈し、ブタでは結核と類似する症状がみられる。現在はブタでの寄生例は少なく、イノシシにしばしば寄生が認められる。確定診断は糞便検査による虫卵の検出と免疫診断が併用される。ブタでは実務的には予防治療は特に考慮する必要はないが、予防法は淡水産カニがブタに食べられないようにすることで、有効な駆虫薬にはブラジクワンテルがある。
												寄生虫感染	Ugeskr Laeger 2006; 168: 384-387	デンマークでは、ヒト回虫症について、海外旅行により感染したか、または回虫症の流行地から輸入された未処理の食品を摂食したために起こると言われていた。しかし、Viborg郡での疫学的調査の結果、ブタが一次感染源であることが示された。著者らの人口遺伝学的調査でも、この仮説が証明された。このことから、先進国におけるヒト回虫症の主な感染経路はブタからヒトであると考えられる。つまり、回虫症は人獣共通感染症あり、その対応策はブタ糞便との接触を避けることであり、特に小児で注意が必要と考えられる。
												炭疽	CDC MMWR Weekly 2006; 55: 280-282	2006年2月21日、ペンシルベニア保健局は、肺炭疽症例について報告した。2006年2月16日にNY在住の男性がPennsylvaniaに演奏旅行中に発症し、症例の血液からBacillus anthracisが単離され、確定された。ドラムを作るためにアフリカ産ヤギの皮を作業所で加工し、エアロゾル化したB. anthracis胞子に暴露したことが原因と思われる。3月14日現在、追加の炭疽疑い症例もしくは確定症例は報告されていない。これは1976年以来初めての、米国において自然発生した肺炭疽症例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	WHO http://www.searo.who.int/en/Section316/Section503/Section2141_11747.htm	WHOはインドネシアで地震の影響を受けた地域における破傷風・ジフテリアの予防接種を提供する緊急計画を実施する計画を作成している。破傷風の初めての疑い例はJogjakartaのSardjito病院へ照会した90才男性である。これと同時にWHOは影響を受けたYogyakartaおよびCentral Javaの両方の患者におけるその他の術後感染症の可能性を警戒している。
												ウイルス感染	Malays J Pathol 2002; 24: 15-21	1998年の後半にニパウイルスという新たなパラミキソウイルスがマレーシアに出現し、国内の豚およびヒトに致死性疾患を引き起こしたため、地元の養豚産業は多大な経済的損失を蒙った。Pteropidオオコウモリは自然保有宿主として同定されている。パルプ材の伐採や産業植林、焼き畑式の山林開拓、干ばつなどにより、これらのコウモリが生息する東南アジアの森林地帯が大幅に減少し、オオコウモリが栽培果樹園を侵食した。このことが、果樹園内の豚舎の位置関係や豚舎の構造と相まって、新規のパラミキソウイルスを保有宿主から飼育豚に伝播させる結果となり、最終的にはそれがヒト集団にまで及んだということである。
												レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。他の専門家は「トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方が良い。」と述べた。北京の中国科学院のGeorge Gao氏の率いる研究者らは、「主に四川省の204名が罹患した2005年の流行は唯一のものではなく、1998年の中国江蘇省での流行と、よく類似していた」と報告した。1998年の流行では感染した25名のうち14名が死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	感染症学雑誌 2006; 80: 1-7	インフルエンザは、インフルエンザウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症で、比類なき伝播力の強さにより、世界各地で流行を繰り返している。新型ウイルスの出現メカニズムについて、これまでは鳥のウイルスとヒトのウイルスがブタなどの同一個体内に共感染することでハイブリッドウイルス(遺伝子再集合体)が生じると考えられてきた。しかし、実際にブタで鳥のウイルスとヒトのウイルスの間において遺伝子再集合が起こったという証拠はない。また、新型ウイルスが従来考えられていたものとは異なるメカニズムで出現しうることが示唆された。必ず起こるパンデミックに対して、人類はいまだ十分な備えができていないと言われている。
33	2006/9/29	68033	マッケ・ゲティン ゲ株式会社	ヘパリン使用単回使用遠心ポンプ ヘパリン使用冠動脈灌流用カテーテル ヘパリン使用心室カニューレ ヘパリン使用人工心肺回路用血液フィルタ ヘパリン使用人工心肺用貯血槽 ヘパリン使用体外式膜型人工肺 ヘパリン使用大静脈カニューレ ヘパリン使用大腿動静脈カニューレ ヘパリン使用大動脈カニューレ ヘパリン使用汎用吸引用カテーテル	ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	イタリア、中国	添加物	有	無	無	口蹄疫	ProMED20060502-0050	中国当局は、青海省の家畜で2ヶ月間で2件目となる口蹄疫事例を確認した。アジア1型口蹄疫ウイルスによる症状が、2006年4月26日にHaiyan地区の乳牛4頭で確認され、診断が確定された。農業省と青海省当局は感染を制圧するための緊急対策を実施している。
												感染	ProMED20060412-0100	中国東部の河川で死亡したブタ数十頭が発見されたが、原因は不明であると、香港の新聞が4月11日に報じた。何らかの感染症が死因ではないかと警戒している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												口蹄疫	ProMED20060313-0050	中国農業省は、アジア1型口蹄疫ウイルスによる感染事例が青海省Guinan県Dayu村で発生したと、3月12日に発表した。事例を報告した農場ではウシ19頭とブタ2頭が、同省の獣医学局によって処分された。農業省によると、感染は現在制圧されている。
												鳥インフルエンザ	OIE 2006年7月21日	中国における高病原性鳥インフルエンザ(follow-up report No. 18): 2006年7月14日に発生した中国の新疆ウイグル自治区におけるH5N1トリインフルエンザウイルス感染は、ニワトリの疑い例6000羽、死亡例3045羽である。
												レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060	科学者らは、4月10日、ブタからヒトに伝播する危険な感染症が異例の致死経過をとって、2005年中国で38名の死者を出したと報告した。中国の科学者らは、「ブタ連鎖球菌(Streptococcus suis)で2005年7月と8月に死亡した者のうち1名を除いて全員が、連鎖球菌トキシックショック症候群により死亡した。」と述べた。この重症の免疫反応は、これまで一度もブタ連鎖球菌感染では認められていなかった。他の専門家は「トキシックショック症候群と診断され、ブタとの接触があった患者は全てブタ連鎖球菌感染を調べた方が良い。」と述べた。北京の中国科学院のGeorge Gao氏の率いる研究者らは、「主に四川省の204名が罹患した2005年の流行は唯一のものではなく、1998年の中国江蘇省での流行と、よく類似していた」と報告した。1998年の流行では感染した25名のうち14名が死亡した。